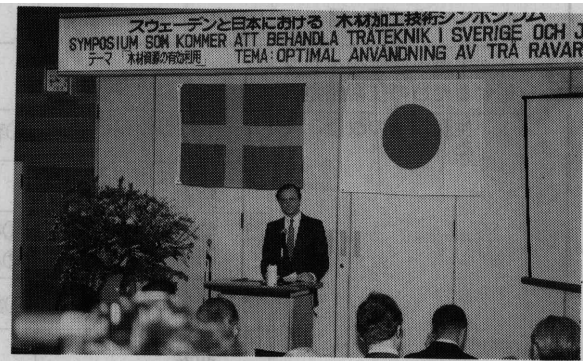


特集 木材資源の有効利用

スウェーデンと日本における

木材加工技術シンポジウムについて



去る3月19日・旭川市開基100年記念事業の一環として、「木材資源の有効利用」というテーマで「スウェーデンと日本における木材加工技術シンポジウム」が開催されました。この催しは・カール16世グスタフスウェーデン国王陛下の御臨席を賜り、スウェーデン国立理工学アカデミー・瑞日基金・旭川市・スウェーデンと日本における木材加工技術シンポジウム推進協議会が主な実施団体として、林産試験場を会場に行われたものです。

このシンポジウムは・坂東徹旭川市長の歓迎挨拶に続いて、カール16世グスタフ国王陛下のお言葉を賜り、開会されました。

初めに日本側を代表して、布村昭夫北海道東海大学教授から「日本の森林資源と木材工業の状況」という題名で講演がされました。その後、シンポジウムに移り、3件の講演が行われました。スウェーデン側の講演者が講演をした後、日本側のコメンテーターにより講演に対してコメントする方法でシンポジウムが進行しました。

3件の講演内容は、1番目にスウェーデン林野庁局長のピヨン・ホグランド教授が「スウェーデンにおける木材資源と育林の方向」という題名で講演され、市立名寄短期大学の小関隆祺氏が講演に対するコメントを行いました。2番目にスウェーデン木工技術研究所長のマーチン・P・ウィクランド教授が「スウェーデンにおける木材の加工とその活用実態（北欧の気象条件下における建築材料としての木材の役割）」という題名で講演され、北海道大学教授の宮島寛氏が講演に対するコメントを行いました。3番目にスウェーデン家具研究所長のイレーネ・オール女史が「スウェーデン家具の特徴とその定着の背景」という題名で講演され、旭川家具工業協同組合副理事長の長原實氏が講演に対するコメントを行いました。

最後に主催者側を代表して、スウェーデン国立理工学アカデミーのスベン・オルピング教授とスウェーデンと日本における木材加工技術シンポジウム推進協議会会長の竹野鐵男氏の挨拶があり、シンポジウムを終了しました。

当日の出席者はスウェーデン側からは、国王陛下および随行随員、企業関係者、ヨーテボリ大学、ノルランド経済ミッション等であり、日本側からは、北海道東海大学などの学会、旭川営林支局などの機関・北海道林産技術普及協会などの団体の役職員並びに学術研究者等約200名でありました。

ここに、関係者の許しを得て、講演内容の概要を本誌に掲載させていただくことにいたしました。

(編集委員会)